

## 2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	電磁環境計測検討小委員会		主 査 名：志田 浩義 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (電磁環境運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：遠藤 哲夫
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(設置目的) 建築物の電磁環境に関する各種計測法及び評価法の確立と標準化  初年度：性能測定法に関する検討 2 年度：性能測定法に関する検討 3 年度：規準案の作成 4 年度：規準案の作成		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無  主査：志田浩義 (EMC テック) 幹事：鶴田壮広 (竹中工務店)、渡辺拓人 (東急建設) 委員：宇治川智 (鹿島建設)、太田和宏 (国土交通省)、笠井泰彰 (大林組)、木村健一 (フジタ)、三枝健二 (日本大学)、田中稔康 (マイクロウェーブファクトリー)、西村俊哉 (日本環境アメニティ)、藤岡友美 (大成建設)、堀之内淳 (エンハンスド・テクノロジー)、峯松育弥 (KEC 関西電子工業振興センター)、横井佐代子 (清水建設)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2022 年度予算	2000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 手法検討は十分行った。一方で標準化には至らず
委員会活動の問題点 ・課題	1. 建築電磁環境の変遷が速く、目標とした手法の変更を余儀なくされた。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A <b>B</b> C      D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>4 年間の活動の中で「到来波法」「電磁ノイズ測定法」「電磁シールドの空間性能評価法」「電磁シールドの S11 評価法」等多くの手法を検討した。電磁ノイズ測定法は現代の手法にさらに整合させるべく継続で審議することとした。</p> <p>建築電磁環境に関する重要性は昨今の通信機能の発達と用途の拡大により近年さらに増している。年間 10 回の委員会開催は負担となりつつあるが審議内容が濃く十分に協議を繰り返した。成果物は少ないが評価は高いと判断した。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。